

KAPITEL 01

現代の共働き家庭などで「代理祖父母」を利用するケースが増えている。子どもにとって、人生の経験豊かな代理祖父母から多くのことを学べることで、情操面にいい効果が見られるという。高齢者たちも、代理祖父母となることで、子どもと過ごすつながりや生きがいを感じられている。代理の祖父母は一時的な関係が前提であるものの、継続する中で、新しい家族のような絆が生まれることもある。

KAPITEL 02

スイスの山村ブラッテンは山体崩壊により、完全に破壊された。ほぼ全員の住民は事前の警告で避難できたが、家と生活基盤を失ってしまった。地域はなお不安定で旧村への立ち入りもできない状況ではあるが、自治体は町の再建に意欲を見せている。研究者は、永久凍土の融解など気候変動が山岳地帯の不安定化を進め、今後も同様の災害が増加する可能性があることを指摘している。

KAPITEL 03

ドイツでは住宅不足が深刻で、多くの人が収入の 4 割程度を家賃に費やさなければならないほど生活水準に見合った家賃の住まいを見つけることが困難になっている。学生、低年金の高齢者、外国籍住民など弱い立場の人々が特に影響を受けている。住宅不足は貧困化を招く問題であるとして、建設支援とともに、空きオフィスの住宅転用などのアイデアも提案されるなど、早急な対応が進められている。

KAPITEL 04

2024 年、ライプツィヒ市立図書館で若きモーツァルトの作と判明したセレナーデが再発見され、音楽界の大きな話題となった。モーツァルトの故郷ザルツブルクと、発見の地ライプツィヒで初演された。この発見は、歴史的アーカイブ研究がいかに重要であるか、また、私たちの身の回りには今後も、ふとしたところで偉大な作曲家たちの未知の作品が見つかる可能性があることを示すものである。

KAPITEL 05

ビール消費大国とされるドイツで、近年は消費量が減少し、とくに若年層で飲酒頻度が大きく低下しているという。ノンアルコール飲料の人気や健康志向、SNS のトレンド動向などがこの傾向を後押ししている。性別でいうと、女性の飲酒、とりわけ過剰飲酒が相対的に増加し、ジェンダー・性役割の変化も垣間見える。若者の飲酒量が減る一方、大麻使用が増加するなど新たな状況も見られる。

KAPITEL 06

オーストリア・グラーツの学校で元生徒による銃乱射事件が起きた。犯人は合法的に銃を所持していたが、軍志願時に精神面で不適格判断がなされた経歴があることがわかった。しかし、その結果がどこにも共有されておらず、この事件を防げなかったとして、制度・情報共有網の欠陥が問題視されている。事件後、銃規制の強化とともに、軍や行政、銃所持鑑定機関での情報共有の改善などが求められている。

KAPITEL 07

学校でのスマホ使用については、州や学校ごとに規則が異なっているのが実情である。スマホ依存や学習妨害、ネットいじめが懸念され、禁止に好意的な意見もある。他方、いまの時代はデジタル機器なしでは生活できない以上、デジタル機器を理性的に使う術を学ぶ機会を奪ってしまうという否定的な声もある。デジタル機器を活用した授業の教育的効果も研究されている。一方的な禁止ではなく、スマホを賢く使用させる教育の強化が求められている。

KAPITEL 08

2025 年大阪・関西万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに約 160 か国が参加し、開催された。その中で、スイス企業ニュースリ社は 5 か国のパビリオン建設を担い、万博の開催に大いに貢献した。ドイツ語圏のパビリオンとして、スイス館、オーストリア館、ドイツ館はそれぞれ持続可能性や文化・技術の融合を象徴する特徴的な建築と体験型展示で注目を集めた。一部の問題はあったものの、2025 年大阪・関西万博は未来志向のアイデアに溢れた場として評価された。

KAPITEL 09

ソルブ人はドイツ東部ラウジッツに住む約 6 万人のスラブ系少数民族で、上・下ソルブ語という独自言語と文化を保持している。ナチス期には言語が禁止されたが、現在はザクセン州とブランデンブルク州で公認され、教育や二言語表示に用いられている。しかし日常使用は減少し、多くの子どもがドイツ語中心に育つため言語の将来は不安視されている。ソルブ語と多くの伝統は地域を超えてもっと認知されるべきである。

KAPITEL 10

ドイツでは多くの高齢者が、老後の年金が少なく、生活するのが精一杯の状態に置かれている。そこに孤独も加わることがあり、状況は深刻である。この問題に対応するため、高齢者に対し金銭支援や生活物資の提供を行う団体が出てきている。なかでも、クリスマスの贈り物は、物の支援以上に、心と心のつながりを感じられるとして孤独な高齢者に喜ばれている。こうした連帯の活動が高齢者に希望を与えている。